

高校生通学実態調査

(調査時期:令和元年5月～8月)

結果概要

沖縄県教育庁教育支援課

※調査は沖縄県からの業務委託を受け、八千代エンジニアリング株式会社沖縄事務所、株式会社ホープ設計共同企業体が実施

◆調査目的

平成28年度に実施された高校生調査によると、困窮世帯において就労経験のある生徒が約47%おり、うち約24%が収入を通学費にあてているという結果が出ており、高等学校における教育に係る経済的負担の軽減を図り、もって高等学校における教育の機会均等に寄与するため、通学費に対する支援を行う必要がある。

このため、効果的な通学費負担軽減のあり方を検証することを目的として、県内の高校生の通学実態、公共交通利用実態、アルバイトの実態等を把握し基礎資料としてとりまとめた。

◆調査対象等

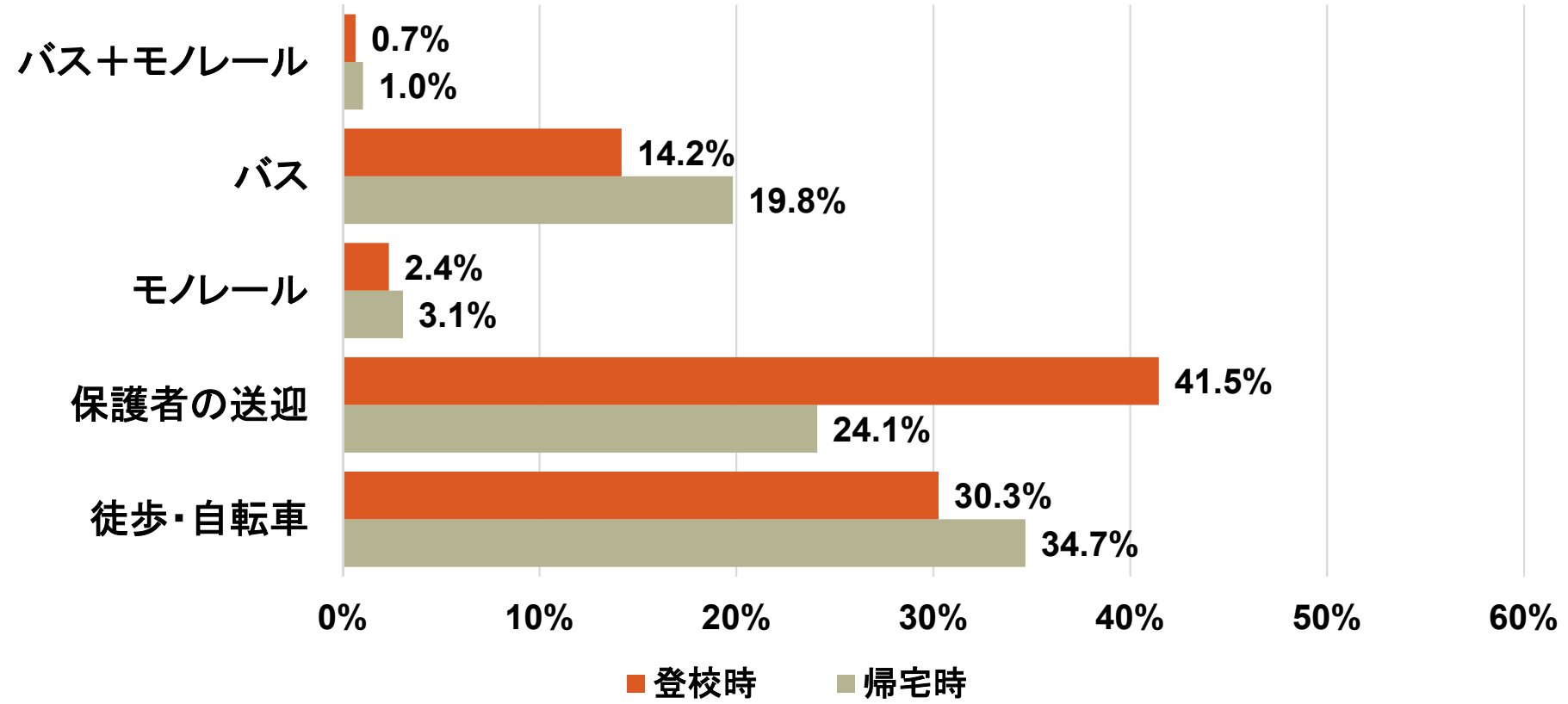
県内の県立高校	: 60校(全日制・定時制課程)
対象の高校生	: 41,942人
回答者	: 35,070人 (回収率:83.6%)

◆ 調査結果概要

※注 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。以下、同じ。

■ 通学手段

※週5日以上利用の割合

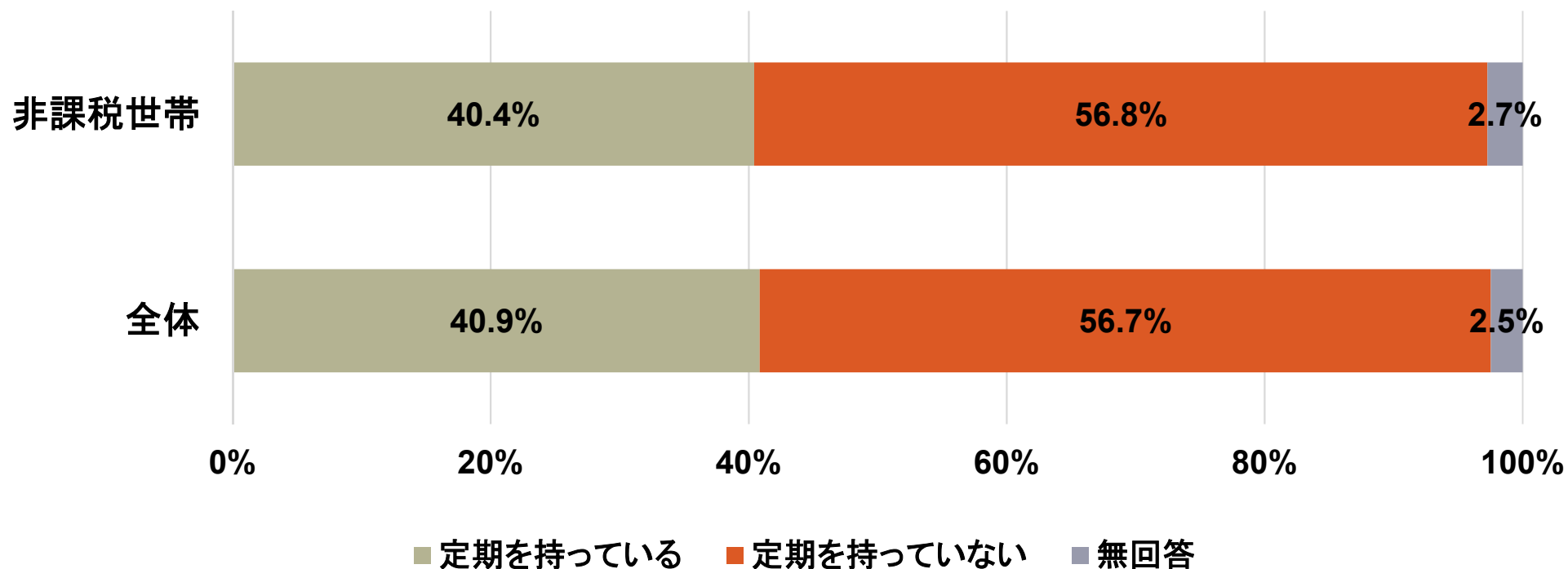


- 登校時は保護者等の送迎が最も多く41.5%を占めており、次いで徒歩・自転車が30.3%、バスが14.2%となっている。
- 帰宅時は、徒歩・自転車が最も多く34.7%を占めており、次いで保護者等の送迎が24.1%、バスが19.8%となっている。

■バス、モノレールを利用している生徒

●定期利用有無

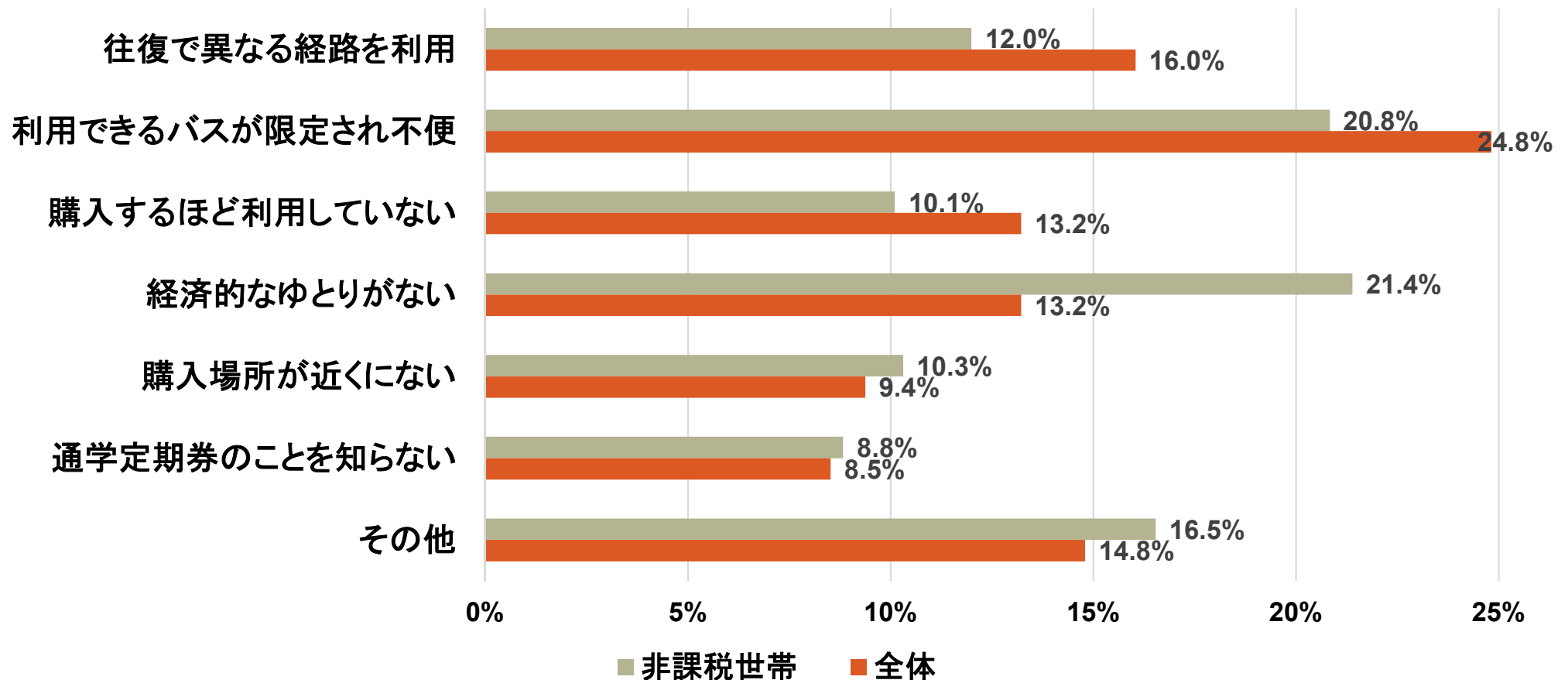
※最も利用が多い通学手段がバス+モノレール、バス、モノレールの生徒を対象



- 公共交通を使っている生徒で、定期を持っている生徒は約40%。
- 所得状況別による違いは見られない。

● 定期を利用しない理由

※最も利用が多い通学手段がバス+モノレール、バス、モノレールの生徒を対象

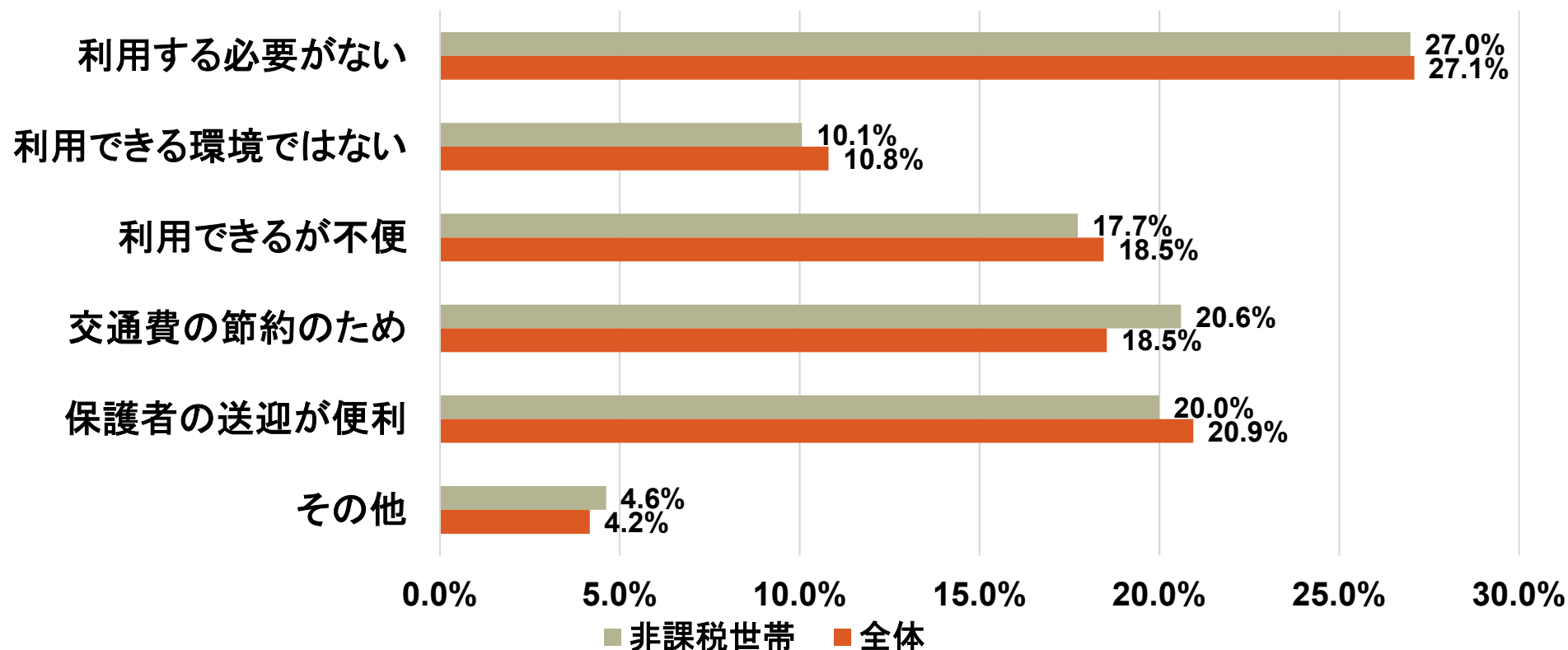


- 非課税世帯では、「経済的なゆとりがない」が最も多い。
- 全体では、「利用できるバスが限定され不便」が多い。

■バス、モノレールを利用していない生徒

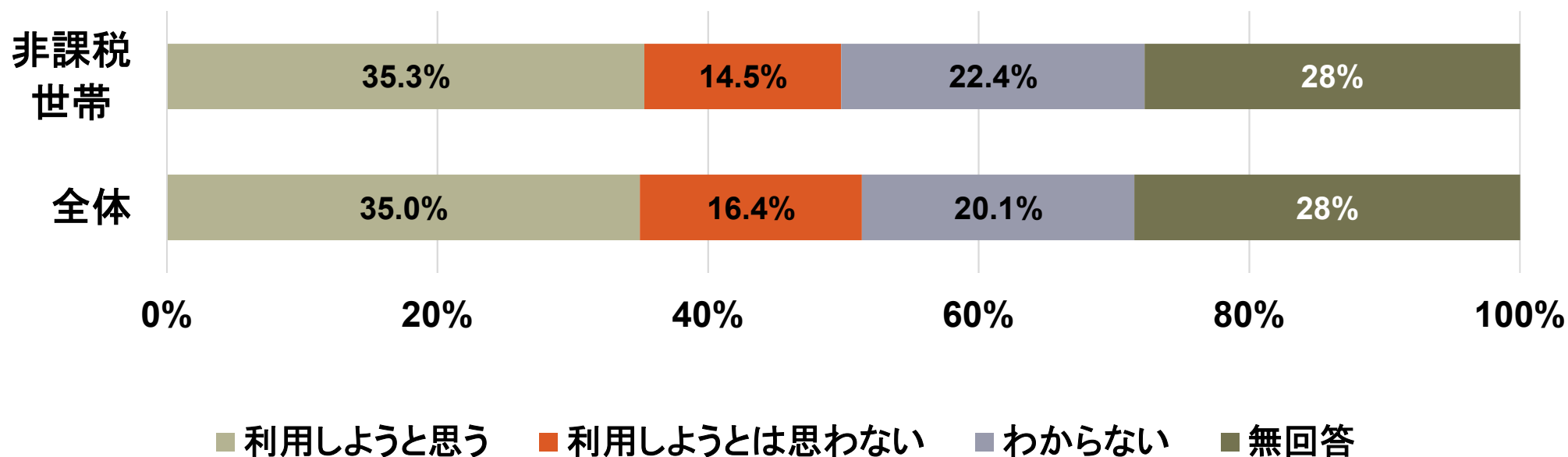
●利用していない理由

※最も利用が多い通学手段がバス+モノレール、バス、モノレールの生徒以外を対象



- 「保護者の送迎が便利」が約20%程度ある。
- 非課税世帯では、「交通費の節約のため」が高い傾向にある。

■ 通学補助の有無によるバス利用意向

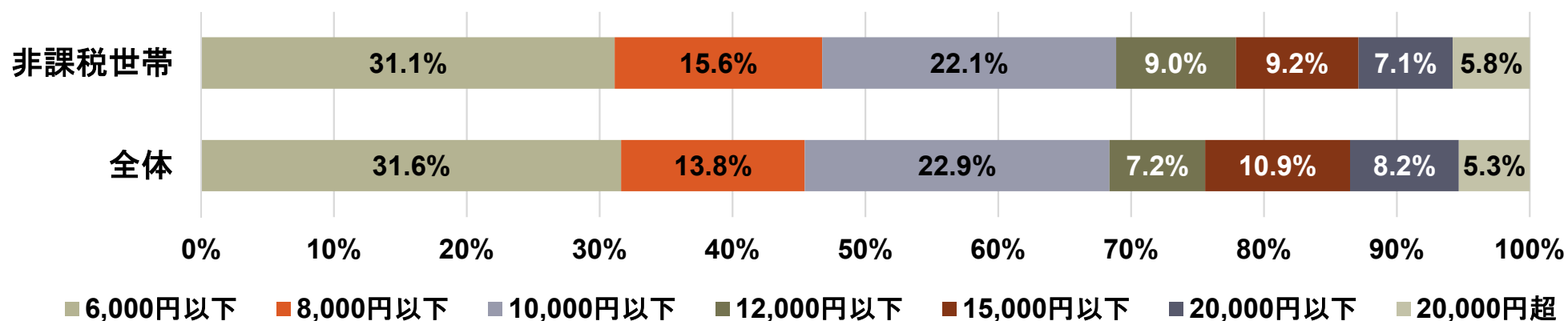


- 通学補助がある場合に「バスを利用しようと思う」と回答した生徒は、約35%となっている。
- 「わからない」も約20%程度いる。

1ヶ月あたりの通学費

●バス定期代

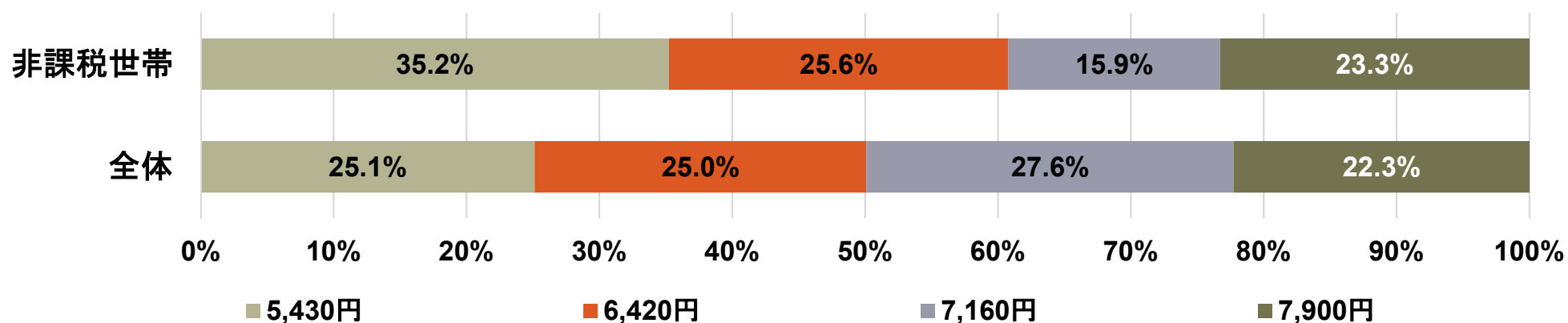
※無回答除く



➤ 1ヶ月のバス定期代は1万円以下が全体で約68%、1万円超が全体で約32%となっている。

●モノレール定期代

※無回答除く



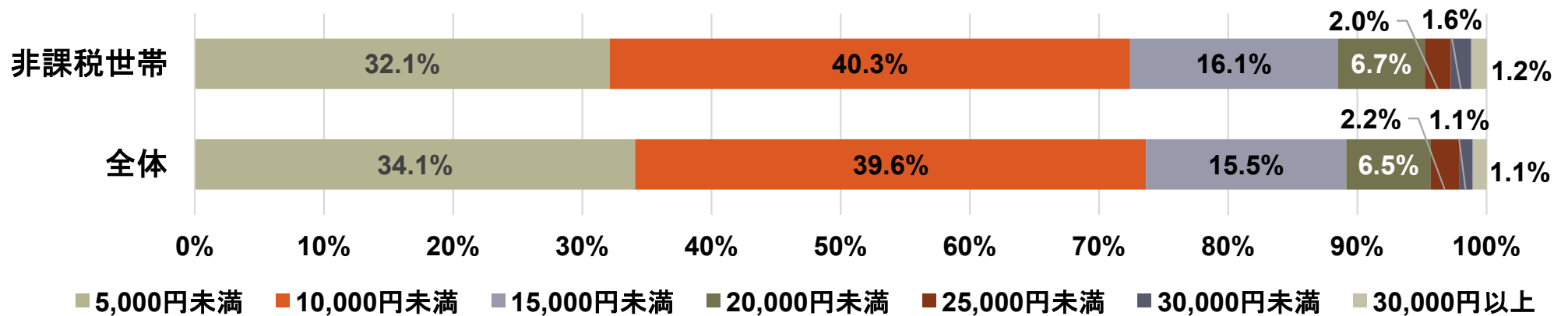
➤ 1ヶ月のモノレール定期代は、非課税世帯は5,430円定期が多く、全体では7,160円定期が多い。モノレールは1万円以内となっている。

※通学費(定期以外)の算出方法:

$$\text{通学費(円/月)} = \text{片道運賃(円/回)} \times \text{利用回数(回/週)} \times 4(\text{週})$$

●バス(定期以外)

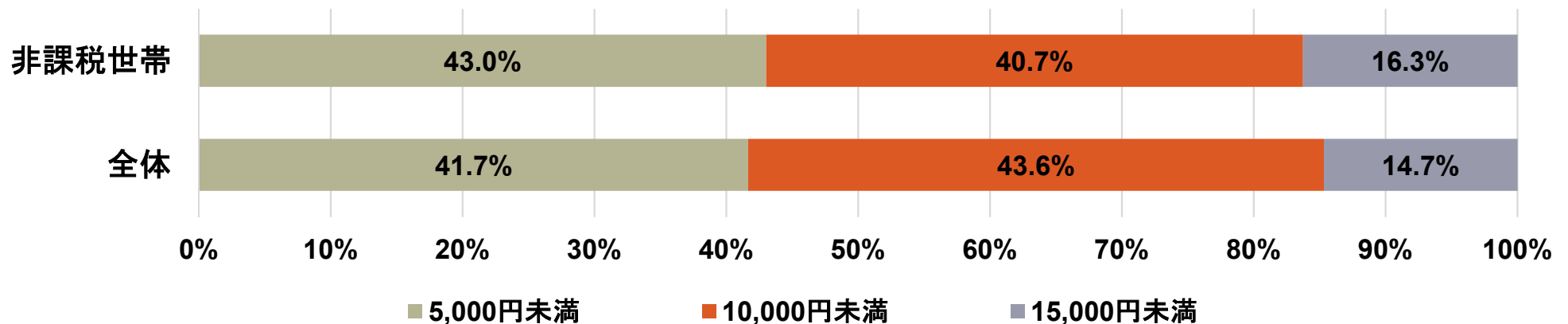
※無回答除く



- 1ヶ月あたりのバス運賃(定期以外)は1万円未満が全体で約74%、1万円超が全体で約26%となっている。

●モノレール(定期以外)

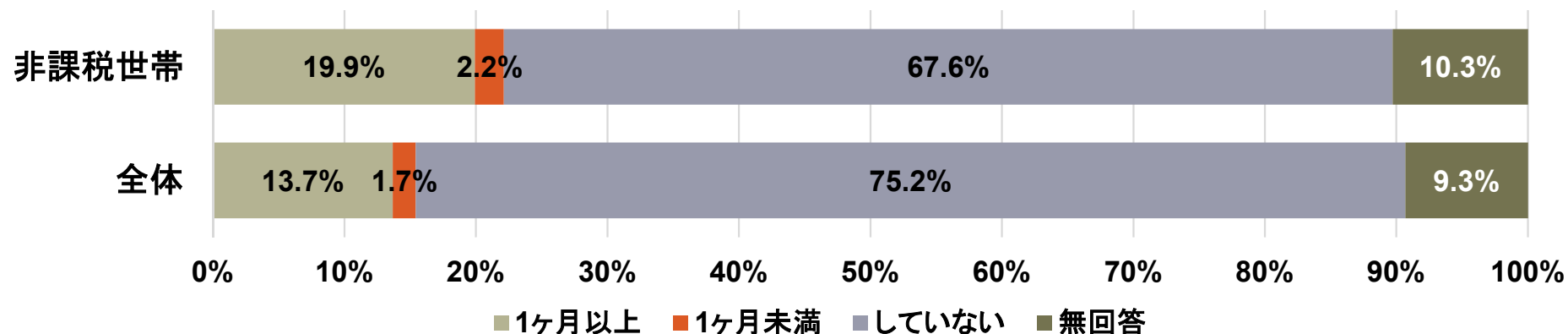
※無回答除く



- 1ヶ月あたりのモノレール運賃は1万円未満が全体で約85%、1万円超が全体で約15%となっている。

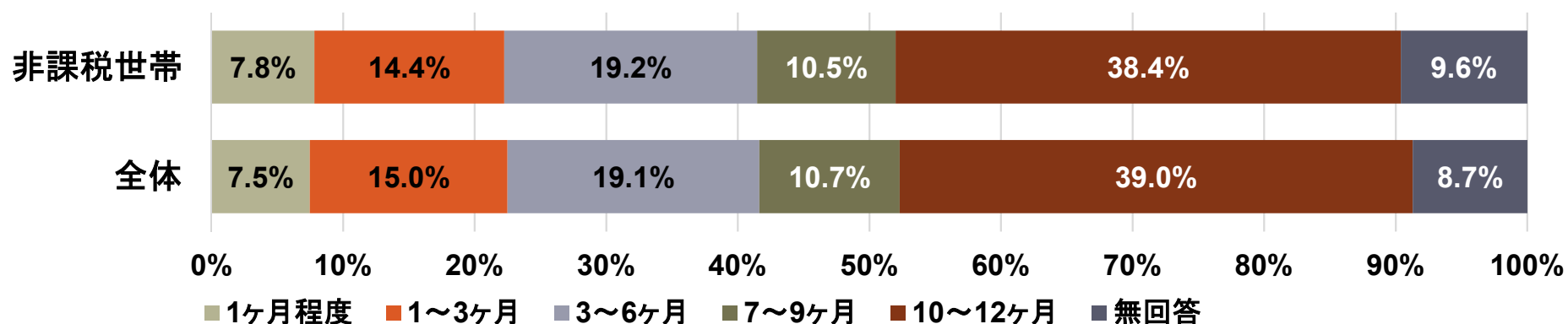
アルバイトの状況

●アルバイトの有無（前年度4月～3月）



- 回答者全体では、過去1年で1ヶ月以上アルバイトをした生徒は約14%。
- 非課税世帯ほど、アルバイトをしている割合が高い傾向にある。

●アルバイトの月数

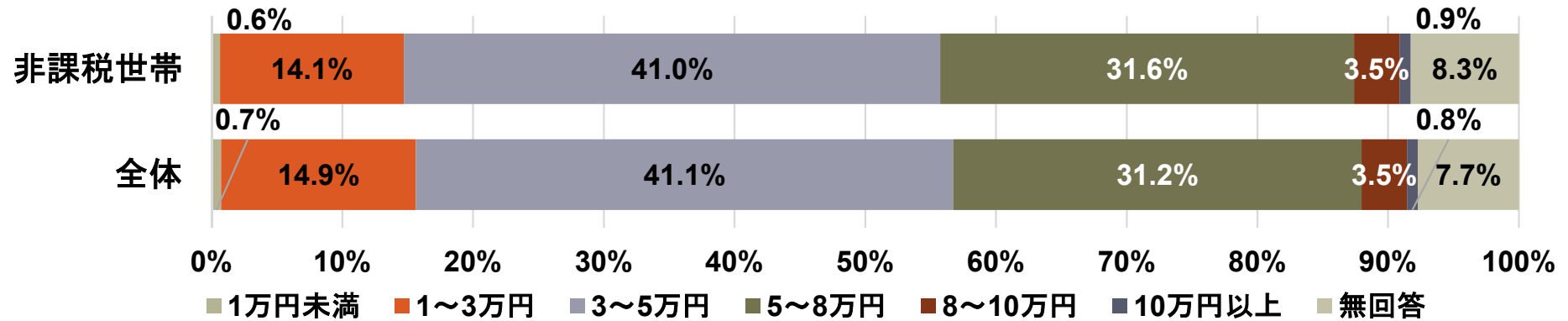


- 1ヶ月以上アルバイトをしている生徒のうち、約4割の生徒が10～12ヶ月アルバイトをしている。

アルバイト収入・用途について

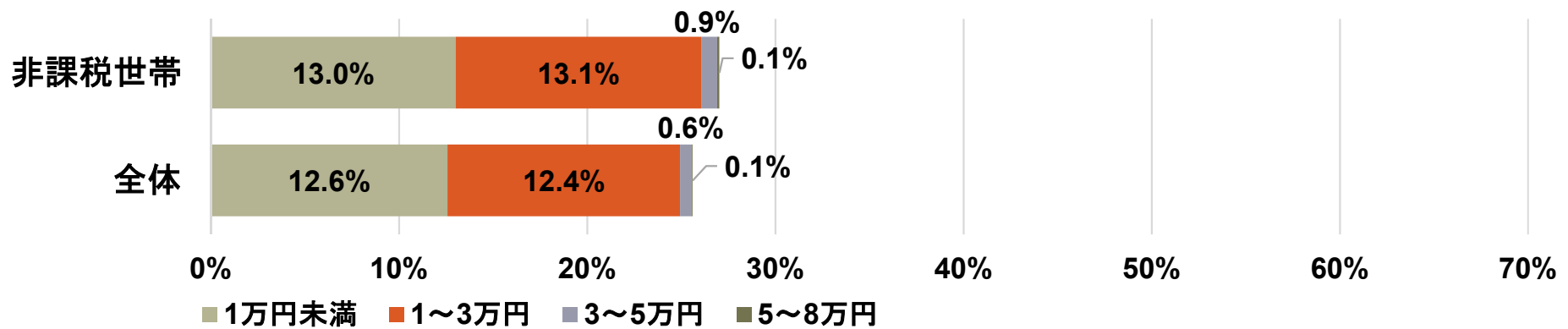
※1ヶ月以上アルバイトをしている生徒を対象

●収入(前年度4月～3月)



- 1ヶ月あたりのアルバイト代は、3～5万円の生徒が最も多い。
- 5万円以上の生徒も3割程度見られる。

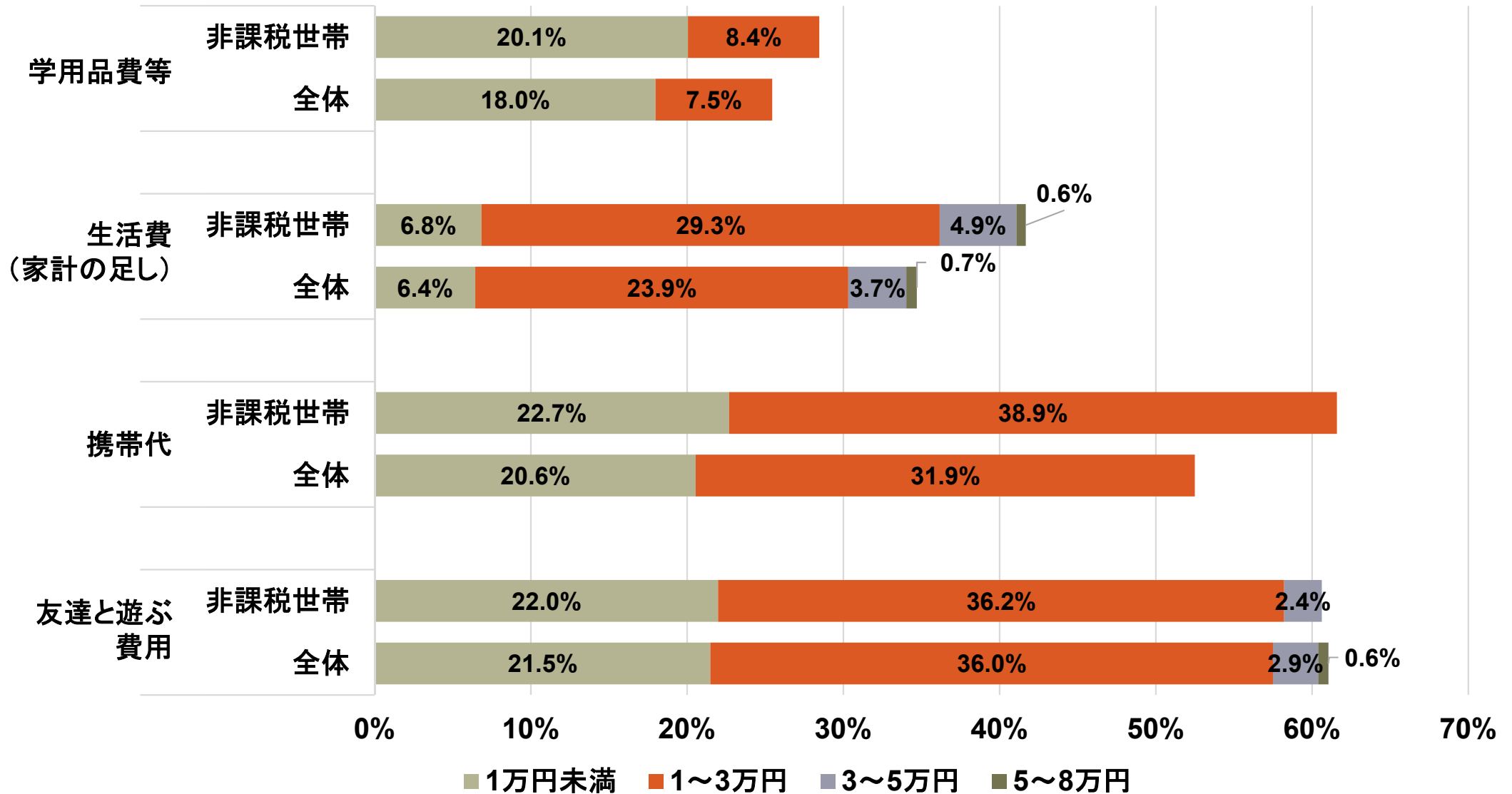
●通学費に充てるアルバイト代



- アルバイト代を通学費に充てている生徒は全体で約26%となっている。

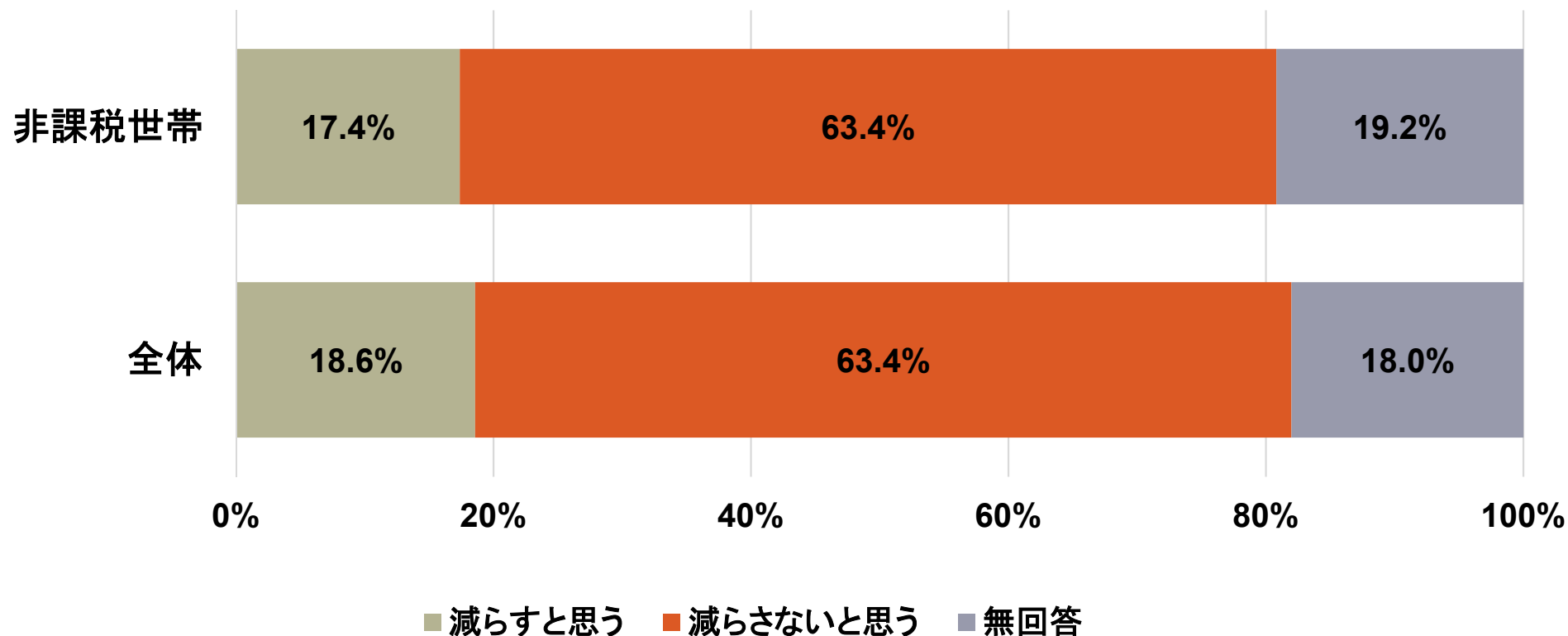
※1ヶ月以上アルバイトをしている生徒を対象

●その他費用に充てるアルバイト代



■通学費の補助がある場合にアルバイトを減らすか

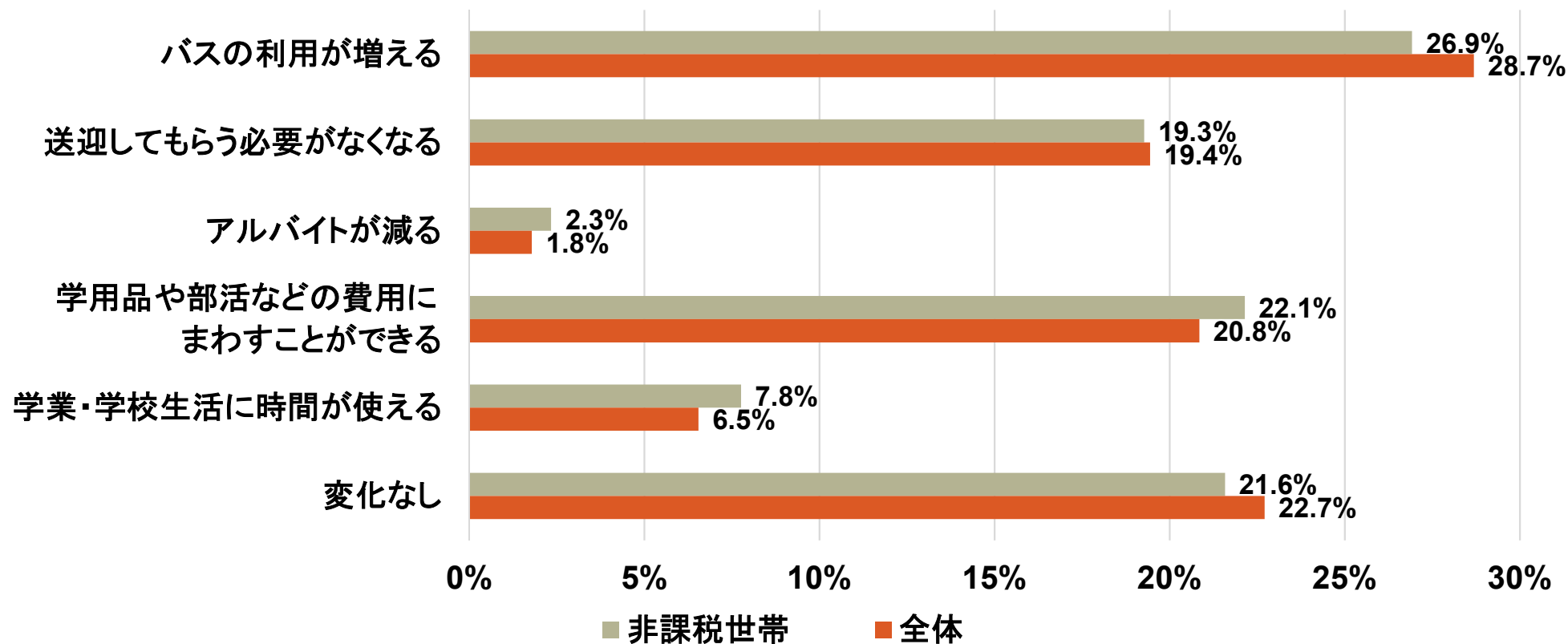
※1ヶ月以上アルバイトをしている生徒を対象



➤ 通学補助があった場合、アルバイトを減らすと回答した生徒は全体で約19%

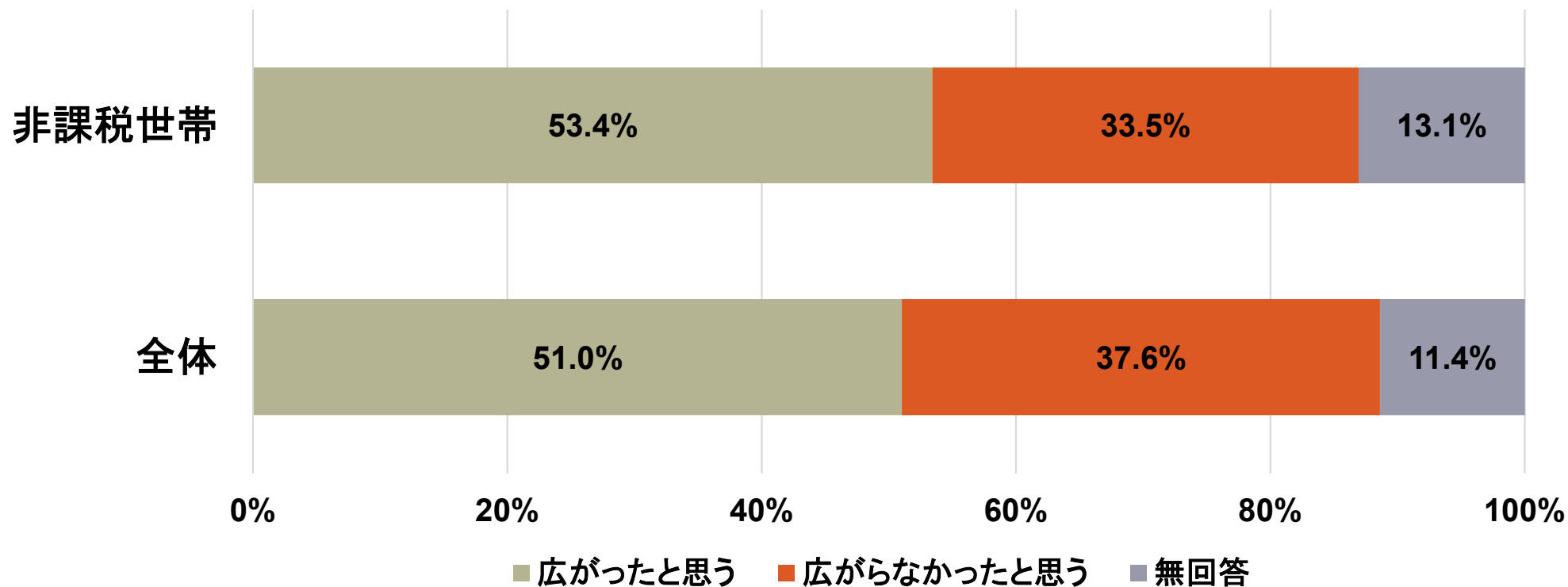
■通学費の補助がある場合の生活の変化

●生活の変化



- 通学補助がある場合、「バスの利用が増える」が最も多く、全体で約29%
- 「学用品や部活などの費用にまわすことができる」が全体で約21%、「送迎してもらう必要がなくなる」が全体で約19%であった。

●進学する高校の選択肢が広がったか



- 通学補助があった場合、進学する高校の選択肢が広がったと答える生徒は5割を超えている。